

# 折板屋根親綱支柱システム

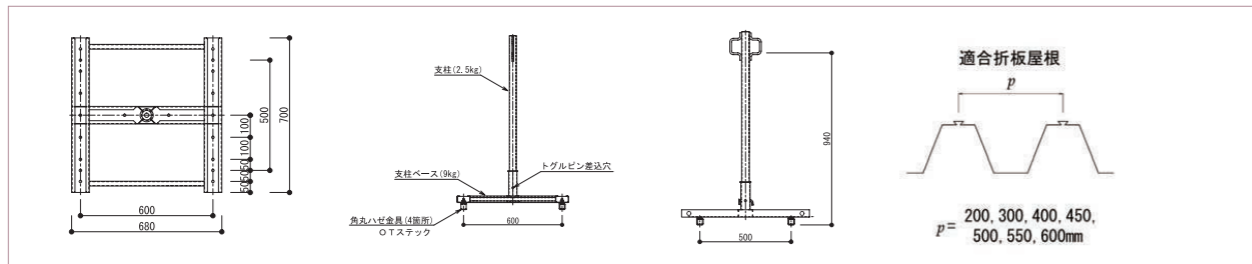
リース 販売

## 特長

- 安全帯取り付け設備としての性能と強度を有します。
- 支柱に単管パイプをつけると、手すり柱としての使用も可能です。
- 折板屋根への取り付けはインパクトレンチで簡単に固定できます。
- ベースと支柱が分割でき、コンパクトに収納できます。



## 外形図



## 金属折板屋根材の条件

1. 馳(ハゼ)締めタイプ
  - 馳(ハゼ)ピッチ 400mm、450mm、500mm、550mm、600mm
  - 板厚 0.6mm~1.2mm
2. 当製品を配置する金属折板屋根材の強度については、当社責任の範囲外となります。強度確認の上、ご使用下さい。  
※参考値 - ハゼ金属 1 か所当たり引張許容荷重 250kg

## I. 親綱システムの使用基準

- 屋根材の先端部(切断箇所)が鋭利なため万が一落下した場合、親綱が切れる危険性があるため、親綱が先端部に接触できない距離(A)を設定しております。
- (1) 支柱の取付スパン(L)と軒先及びケラバの各々の端部から距離(A)を(表1)に示します。
  - (2) 親綱システムは1スパン1人のみ使用出来ます。
  - (3) 安全帯のランヤードは、織ロープ式とし、安全性の確認されたものを用いて、長さを1.7m以内のものをご使用下さい。
  - (4) 親綱(ポリエステル製)の外径は16mm以上のものをご使用下さい。(仮設工業会認定品)
  - (5) 親綱に緊張を与えるために親綱緊張器をご使用下さい。(仮設工業会認定品)
  - (6) 屋根傾斜は10%を限度とします。

スパン(L)	端部からの距離(A)	軒高
5m	1.5m以上	4m以上
6m	2.0m以上	
7m	2.5m以上	
8m	3.0m以上	
9m	3.5m以上	
10m	3.5m以上	

注) 最大スパンは10m迄とします。

## II. 防護工(第2種)用支柱の使用基準

- (1) 手摺支柱の間隔(スパン)は2m以内とします。
- (2) 手すり(上さん)及び中さんは単管パイプ(φ48.6)を使用してください。
- (3) 屋根傾斜は10%を限度とします。

## ●禁止事項●

1. キズ、へこみ及び赤さびによる腐食等、強度の劣化が見込まれる金属折板屋根材には、設置する事はできません。
2. 馳(ハゼ)締め加工が終了していない屋根材には使用できません。
3. 支柱の上部フックに直接安全帯のフックを取付けることは出来ません。親綱ロープに取付けて下さい。
4. 転落等で一度衝撃を受けたシステム部材の再使用は出来ませんので廃棄して下さい。

## ●使用前点検事項●

1. 馳(ハゼ)締め加工は完了しているか。
2. 支柱のスパン及び端部からの距離は、使用基準の(表1)を満たしているか。
3. 馳(ハゼ)金具のボルトナットにゆるみはないか。
4. 親綱ロープは緊張されているか。
5. 緊張器は緊張した後、ゆるまない機能を備えているか。

## ●使用后点検事項●

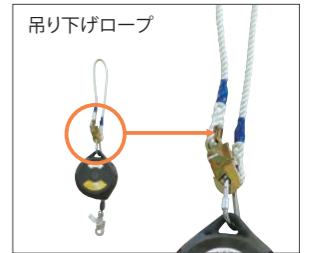
1. 馳(ハゼ)金具のボルトナットをゆるみなく本体に固定しているか。

# 安全ブロック

リース 販売

## 特長

- 安全ブロックの使用に際しては、普通の安全帯より安全性が高い落下傘式ベルトUS-7型をおすすめします。
- 万一墜落が起きた時、ワイヤーロープが構造物の鋭角部に直接触れていると切断されることがあります。これを避けるため、使用状態には十分注意して下さい。



## 引き寄せロープ規格寸法

長さ(m)	色
7.5	青
15	黄
25	赤

※安全ブロックのリースの際は、引き寄せロープは別売りとなります。

## 規格寸法及び性能

[東京・東北拠点扱い]

長さ(m)	7.5	15	25
型式	KP-7.5	KP-15	KP-25
寸法:横×縦×厚さ(mm)	198×262×90	218×287×90	257×329×122
質量(kg)	4.5	6.0	9.2
ワイヤーロープ	種別 A3号(航空機用炭素鋼ワイヤー)		
	径(mm) φ4.00		
最大使用質量(kg)	30~100		
停止距離(cm)	50~100		

[その他地域扱い]

長さ(m)	7.5	15	25
型式	LB-7.5	LB-15	LB-25
寸法:横×縦×厚さ(mm)	183×231×89	244×284×107	270×326×119
質量(kg)	3.7	6.4	10.3
ワイヤーロープ	種別 A3号(航空機用ステンレスワイヤー)		
	径(mm) φ4.76		
最大使用質量(kg)	85		
停止距離(cm)	40以下		

※上記データは測定平均値で保証値ではありません。

## 安全ブロック使用方法

### 【使用方法】

1. 安全ブロックの安全フック部分に引き寄せロープを接続し、作動点検からスタートします。
2. 鉄骨建方時に、地上で鉄骨柱最上部に安全ブロックを取り付けます。
3. 引き寄せロープを鉄骨柱に最初から添わせて伸ばしておき、その状態でそのまま鉄骨柱を立てます。
4. 引き寄せロープで安全フックを引き寄せ、安全フックを安全帯のD環に掛けて鉄骨柱を昇降します。
5. 安全フックが自動的に安全ブロック本体に収納されますので、両手が自由な状態で昇降できます。